

令和3年度 第2回丹波篠山市地元就職推進委員会会議録

1 附属機関等の会議の名称

第2回丹波篠山市地元就職推進委員会

2 開催日時

令和4年2月28日（月）18：30～20：00

3 開催場所

四季の森生涯学習センター 東館 大会議室

4 出席委員

細見 伸広、大久保 隆、岸部 健司、佃 多鶴子、北田 純、
岩崎 弘子、細川 伸也、波部 敦史、宇瀧 広子、中川 健治、
堀井 宏之、土井 正幸

欠席委員

古川 さをり、足立 浩子、

事務局

企画総務部長 竹見 聖司、創造都市課長 藤田 尚位、
企業振興室長 小倉 元一、主査 北村 春恵

(敬称略・順不同)

5 会議資料

- ・次第
- ・資料1 地元就職推進の取り組み状況について
- ・資料2 令和4年度の事業推進について

6 審議の概要

1. 開会

2. あいさつ

委員長よりあいさつ

3. 報告事項

- (1) 令和4年度地元就職推進事業について
- (2) 令和3年度地元高校の就職状況について

4. 協議事項

- (1) 地元高校からの市内事業所への就職率向上について

【事務局】 資料1、資料2、説明

【委員長】 地元就職推進のため様々な事業を実施しているが、人材確保は困難な状況である。主に高校生の製造業関係の採用が困難で、市内高校卒業生も進学者が約7割となっているため、市内企業への就職が少なくなっている。進学後に地元に戻ってきてもらうことも一つの方法であるが、こういった現状も踏まえ、それぞれの立場でいろいろな意見を伺いたい。

【A委員】 令和3年度卒業予定の就職者は、公務員を含めると2名。地元就職が1名で、丹波篠山市役所へ就職。ほとんどの生徒が進学し、就職希望者は公務員志向が多い。今年度「キャリア教育出前講座」を実施いただいたため、帰ってくることは4年後になり、長い目で見ることが必要。

【B委員】 市の様々な取り組みや、市内企業の皆さまのご協力に感謝申し上げます。市内への就職は指導もしているが、市内外から多くの求人をいただくため、求人数に対して高い水準に届かないところがある。

また、就職者の減少については、総合ビジネス科の生徒が各

種の検定試験を受験し、8種目において全て1級を取得した生徒もいたため、商業科による推薦入試など大学進学者が多くなり、進学率が高かったことが影響している。進学後が課題で、追跡が必要なため、学校でも行っていきたい。

【C委員】 多くの進路学習について、丹波篠山市や市内企業の皆さまにご協力いただき、感謝を申し上げます。

令和3年度卒業予定者のうち、丹波篠山市在住者は19名。そのうち就職希望者は11名で、実際の就職者は6名であった。

市内出身者の就職希望者は昨年度同様、概ね60%。そのうち市内企業への就職者は、昨年度は69%、今年度は54%と若干下がっている。市外の企業へ就職した理由として、市内企業でパン製造に就職希望した生徒がいたが、その職種で市内企業からの募集はなかったため、市外へ就職した例もある。生徒の就職先の選定については、生徒は求人票を見ながら決めていく。主に職種、給与、保障面を見ているのではないかと推測している。

学校の特色から、食品加工等の専門学校や農業系の大学に行く人が増えているため、就職希望者は減少している。また、本校は全県学区から募集しているため、地元が丹波篠山市ではない生徒もいることをご理解いただきたい。

【D委員】 今の高校生は、一人暮らしをしたい、都市部に出たいという人は多いものか。

【A委員】 推進入試の面接練習が必要な生徒を全員対応したが、ほとんどの生徒が地元で働きたいと言っていた。私は帰ってきてくれると思っている。

【B委員】 一部の大学や専門学校等、通学できない生徒は一人暮らしするが、就職希望者は三田市、阪神間に就職する生徒が多い。三田市に在住している生徒も多く、交通アクセスが整備されて通勤通学圏内に入ってきている状況にあるため、地元を離れるばかりではない。

【C委員】 あくまで感覚であるが、一人暮らし自体が億劫なのか、自宅

から円を描いて通える範囲での就職先を検討しているように感じる。興味関心事、プラス給与面が就職先の決め手になっているように感じるため、我々世代の感覚のような都会志向は減少しているのではないかと感じる。

【委員長】 私たちの年代は都会志向が多く、ふるさと教育もなかった。今日の意見にもあったように進学卒業後、学生が希望する仕事を市内企業で見つけられるよう繋ぎとめることに力を入れていくと良いかもしれない。

【副委員長】 コロナ禍によりここ3年、学校の先生との関係性をつくるのが非常に難しくなっている。先生方と信頼関係が深まると良いが、結びつきが少なくなっている。今年度の就職状況の数字を見ると、就職先として学生から選んでもらえることが奇跡に近いのではないかと特に感じた。交通の便が良くなっているため、就職後通えてしまう時代になっている。どうやって繋ぎとめられるかが課題である。

【E委員】 毎年市内高校から何人か応募があったが、今年は0人。市内在住者で丹波市の高校生を1名採用した。どういう会社が選ばれるのか、待遇、給与面なのか、自社に何が足りないのか知りたい。

【B委員】 大学生の就職状況について鑑みると、大手志向が強まっていると聞くため、同様なことが高校生にも言えるのではないか。待遇面、福利厚生面、知名度等、生徒や保護者の方が安定志向であると感じる。企業が南部にあり、アクセス面の向上も踏まえてこういった状況になっていると考える。市内企業の皆さまにおいては全国的に、また丁寧な仕事をされていると企業紹介ガイドブックで拝見しているが、なかなかうまく浸透しづらい状況である。

【委員長】 知名度については、市内企業を知っていただく取り組みを実施してるため、増やしていければと思う。

【F 委員】 篠山東雲高等学校のキャリア教育出前講座は楽しみであったが、コロナ禍により中止になり残念だった。逆に「高校生&教職員対象企業見学会」はコロナ禍により自社から受入を辞退した。

弊社については、コロナ禍において人材採用は難しい。令和4年度は篠山産業高等学校、氷上高等学校から女性各1名採用。思っている枠に達成しないが有りがたい。昨年も氷上高等学校から採用していたため、1名就職したら応募が続く傾向があるのかもしれない。

【G 委員】 高校生は地元志向が強いにも関わらず、就職者が減少している。進学中に恐らく薄れてしまっている傾向が大きくあるのではないか。

地元高校への進学者も増やさないといけないため、高校魅力化の取り組みも大事。

I ターンした就職者の声を発信して「外からも就職している」というイメージを持たせることも良いのではないか。

広報紙は高校生自体あまり見ないと思うので、同様の内容をホームページで掲載しているため、そこへ誘導するような手立てが必要ではないか。トレンドを大事にうまく発信し、地道な広報活動が大事。

また、オンラインでの試験や面接、企業説明会など、地元企業の採用方法の幅を広げることも必要なのではないか。

【委員長】 市広報紙に掲載した記事については、ホームページで掲載していることをLINEで配信しているか。また、チラシ等にはしているか。

【事務局】 LINEでは配信し、チラシにはしていない。

【委員長】 チラシ等を作成した際には配布いただけるか。

【B 委員】 配布できる。市広報紙や新聞に生徒が掲載された時は、こう切り取りして校長室の前に掲載している。生徒も読んでくれている。

LINEにとどまらず、インスタグラムやツイッターなどは保

存性が良いのでそちらで発信することも良いのではないか。

【委員長】 発信方法については、事務局で研究して検討いただきたい。

【F委員】 就職状況ですが、三田市や丹波市も就職状況は同じなのか。

【B委員】 三田市の高校は4つ共普通科高校で、もともと就職する生徒は少ない。工業系の学校は篠山産業高校か尼崎工業高等学校や西脇工業である。

【C委員】 本校生徒で、三田市に在住するある生徒は、自己が希望する職種の公募状況から、神戸市西区の企業に就職をした。地元（三田市）に就職をすることではなく、基本、希望する職種及び自宅から通勤できる範囲から選択していると思える。

【委員長】 今の高校生の感覚が変わってきているように感じる。

【H委員】 大学のキャリアセンターによると、給与面、仕事内容等、都会志向であると聞くが、今日の意見を聞くとふるさと教育が生きているのではないかと感じる。

進学後、4年間繋ぎとめる対策が大事。高校の就職状況については、居住地の情報により地元がどこであるかで分析すると実情がわかりやすくなるのではないか。

丹波地域人材確保協議会では大学生向け冊子を制作している。よくある企業紹介ガイドブックではなく、先輩の仕事ぶりや暮らしぶりに注目して作成している。都会での大企業とは違う働き方や暮らし方ができることを伝えていきたい。

【委員長】 就職状況について、生徒の居住地等の内訳については提供いただけるか。

【B委員】 この委員会のために事前に言ってもらえれば提供できる。

【委員長】 地元志向が強いが、進学後、地元で就職したい子はどれくらい減るのか、減少しなくても就職したい企業が実際に市内にあるのか、進学後の4年間どう気持ちに変化があるのかも具体的

に気になる。そういった視点も大事。

【I委員】 市の取り組みの中で、企業紹介ガイドブックは非常に読みやすく有益なものになっているため、続けていただきたい。求職者に持って帰ってもらっている。SNSでの広報も大事であるが、本などの冊子も即効性はないかもしれないが大事。

【J委員】 上の娘は大学進学後、市外へ出て、市外で就職した。子供が何を見て求人を知るのか把握しておらず、子供の好きな所へ行けば良いと思っていた。下の子は学生のうちから地元就職する選択肢も伝えていきたい。

【H委員】 大学の求人については、インターンシップも含め、学生自身が調べて探す。キャリアセンターもあるので、そこで相談もできる。人材確保協議会でも大学のキャリアセンターと企業の情報交換会があり、そこで丹波地域の企業を、丹波地域出身の学生の方などに繋げてもらうよう、キャリアセンターへお願いをしている。

【D委員】 大学生の企業選定方法はどのように行っているのか。大手企業については学生側から検索できると思うが、知名度の低い企業はどうやって知るのか。大学のキャリアセンターに求人票が届くのか。

【A校長】 大学生は、大きな会場で行われている大学生向けの企業説明会で知っていくと考えられる。

【D委員】 インターネットを見ると、中小企業で、年功序列を大事にしている企業があり、志望者が多いと掲載されていた。学生の就職先の決め手は、給与や休日の待遇面だけではないのかもしれない。

地元から出た学生にアタックすることがやはり大事だと考える。市外の高校に進学した子にどうアプローチするかも大事。

【委員長】 市としても令和3年度から市内高校への進学率向上のための取り組みを実施し、地元志向が挙がっていけば良いと思う。今

後も採用に関しては企業努力も必要であるが、企業と高校生の取り次ぎや、進学後のフォローする取り組みなどについてもご意見、ご提案いただけたらと思う。

8. その他

【事務局】 本委員会は、2年任期となるため、令和5年3月31日が任期となる。4月で異動、役員の改選等により委員交代となる場合は後任の方へ引継ぎと、事務局の方へ連絡をお願いする。

9. 閉会

副委員長あいさつ